

要 約

1 委員の変更

西予市医師会長 会長 織田英昭 様
県看護協会理事 市立大洲病院看護部長 山中志麻 様
市立八幡浜総合病院 院長 大蔵隆文 様
全国健康保険協会愛媛支部 支部長 逸見雅一 様

2 令和元年度病床機能報告（資料1）

1) 資料1……P4～5

2019年度報告（R元年）から現在（令和R年12月末）までに、病床削減（石村病院53床↓）、病床廃止（東大洲城戸眼科19床↓、久保循環器科内科19床↓）があった。

また、2018年度（H30年）病床機能報告では矢野脳神経外科（19床）が介護施設に転換する報告であったが、令和2年秋に、転換中止との連絡があった。病床削減予定の野村病院、病床廃止予定の亀井小児科を考慮すると、当圏域はほぼ必要病床数になっていることから、矢野脳神経外科の介護施設への転換取りやめは、当圏域の地域医療構想に影響はない。

また、2019年度（R元年）報告では、高度急性期0床、急性期906床、回復期265床、慢性期539床となっており、年々、2025年必要病床数に収れんしている。

2) 病床機能報告を定量的な基準（埼玉方式）により試算した結果

資料1……P6～7

①高度急性期

2025年（R7）必要病床数59床と比較すると、高度急性期40床不足となった。2017年（H29）と2018年（H30）を比較すると60床から19床となり、高度急性期の稼働は減少となった。

2017年（H29）及び2018年（H30）の高度急性期の病床機能報告は0床であるが、定量的基準の評価では2017年（H29）は60床、2018年（H30）は19床の稼働しており、高度急性期は病床機能報告の中で、病院が急性期に分類して、報告していると考えられる。これは、病床機能報告制度（病棟単位での病床数報告）に問題があり、また、病院・地域から高度急性期の運用に支障がある報告もないことから、地域医療構想上問題ないと考えられる。

②急性期

2025年必要病床数486床と比較すると、165床過剰となった。H29年と30年と比較すると316床から651床となり、急性期の稼働は増加となった。

③回復期

2025年(R7)必要病床数693床と比較すると、回復期は65床不足となった。2017年(H29)と2018年(H30)と比較すると967床から628床となり、回復期の稼働は減少となった。

2017年(H29)の回復期の病床機能報告は254床であるが、定量的基準の評価では967床、2018年(H30)の回復期の病床機能報告は307床であるが、定量的な基準の評価では628床を稼働しており、回復期は病床機能報告の中で、病院が一部急性期に分類して、報告していると考えられる。これは、病床機能報告の制度に問題があり、病院・地域から回復期に運用に支障がある報告もないことから、地域医療構想上問題ないと考えられる。

④慢性期

2025年必要病床数443床と比較すると、1床不足となった。H29年と30年と比較すると406床から442床となり、慢性期の稼働は増加となった。

まとめ

年度により多少の増減はあるが、全体として目標年度である2025年(R7)の病床数に向けて収れんしており、八幡浜・大洲地域医療構想区域において問題ないと考えられる。

3 令和2年度地域医療介護総合確保基金(医療分) 要望事業一覧

資料2……P1 昨年度、八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議から推薦したすべての事業が国から採択され、事業を実施している。

4 令和3年度地域医療介護総合確保基金(医療分) 要望事業一覧

資料3……P1 令和2年9月3日、保健所で開催した当調整会議基金部会において、推薦順位(案)を承認後、全委員に書面で意見・質問を徴したうえで、県庁医療対策課に推薦をした。